第１回　真備地区復興計画策定委員会　議事概要

１．会議名

第１回真備地区復興計画策定委員会

２．開催日時

平成３０年１１月２１日（水）１０時００～１２時１０分

３．開催場所

真備保健福祉会館３階大会議室

４．出席者

（１）委員（１８名）

奥田隆志委員，神崎均委員，黒瀬正典委員，山口敦志委員，坂本博委員，
中尾研一委員，野田俊明委員，岩崎美佳子委員，森本常男委員，
浅野静子委員，平子ユリ子委員，松王資子委員，諏訪愿一委員，
中山正明委員，妹尾洋子委員，三村聡委員，加藤孝明委員，橋本成仁委員

（２）その他

オブザーバー（３名），事務局（２４名）

５．傍聴者

７名

６．報道機関

１２社

７．議題

（１）真備地区の現況について
（２）復興懇談会の主な意見について
（３）復旧・復興に向けた課題について

８．議事次第

１　開会
２　挨拶
３　委員紹介
４　真備地区復興計画策定委員会について

５　委員長，副委員長の選出
６　諮問
７　議題
（１）　真備地区の現況について
（２）　復興懇談会の主な意見について
（３）　復旧・復興に向けた課題について
８　閉会

９．配布資料

次第，委員名簿，配席表
資料１　　第１回真備地区復興計画策定委員会　説明用資料
参考資料１　　真備地区復興計画策定委員会設置規程
参考資料２　　「真備地区復興計画」策定に向けた検討体制
参考資料３　　真備地区復興計画　検討の流れ・検討事項

１０．議事内容　　（◎　委員長，○　委員，■　事務局）

➢ **委員長，副委員長の選出**

■　選出方法についてご意見等あるか。
○　（意見なし）
■　委員長，副委員長の選出を事務局からの案としてもよろしいでしょうか。
○　（異議なし）
■　事務局としては，委員長を三村委員，副委員長を市民代表として奥田委員にお願いしたいと思っているが，皆様いかがでしょうか。
○　（拍手）
■　それでは，異議なしということで，委員長を三村委員，副委員長を奥田委員で決定する。

➢ **議題（1）真備地区の現況，議題（2）復興懇談会の主な意見について**

◎　委員の皆様から，それぞれの立場から活発な意見をお願いしたい。
○　真備町は平成１７年に倉敷市と合併したが，真備町時代から小田川の治水は懸案事項であった。合併から１３年経過し，ようやく小田川の改修工事が始まるというタイミングで災害が起きてしまった。
真備町は合併の際に田園居住ゾーン（倉敷市真備町新市建設計画）に指定されており，倉敷地区や水島などで働く人たちの居住地となっている。多くの方が住んでいる真備地区が被災したことは，非常に悲しいことだと感じている。
一日も早い復興をお願いするとともにスピーディーな対応をお願いしたい。

◎　倉敷市都市計画マスタープランにある，住みやすいまちを早く取り戻していこうというご意見である。
他の委員の方はいかがか。市の方からも補足等あればお願いしたい。

■　当初は，今秋から１０年間かけて小田川の改修工事をする計画であったが，国に働きかけ，工事を集中的に実施し，５年間で整備ができるようにしていただいている。
これからも一日も早く工事が終わるよう，国・県に働きかけていく。
委員の皆様には，真備町の将来像について，都市計画マスタープランをベースとし，追加すべきこと等あればご意見いただけたらと思う。

◎　７回の復興懇談会での多く出た意見をとりまとめているという印象であるが，さらに補足や感想などあるでしょうか。

○　これまで避難所の問題について提議させていただいている。
呉妹地区では，避難所がなく，小学校はあるが，洪水に対応した避難所として指定されていない。他の地区にも，避難所が無い，または遠い，あるけど水害時は使えないなどの問題がある。今年の台風の時にも，どこに避難すればいいのかと住民の方からの問い合わせが多くあった。
市民の皆様も発災時は，避難所を当てにする。どこに避難すれば自分や家族の身を守ることが出来るのかが一番の問題となる。
小田川の改修工事は，５年間で完了するが，この５年の間に安全・安心な避難所を確保することも早急に検討してほしい。

■　懇談会の際にもご意見があったが，現状では，小学校区に避難所がない地区がある。今のハザードマップでは，避難所としての指定が難しい場所がある。
今後，国とも相談し，今次災害での浸水範囲や高さなどの被害状況を踏まえ，各小学校区に一カ所は避難所が設置できるよう努めていきたい。

○　是非，早急に避難所について検討していただきたい。

◎　避難所の確保については，非常に重要な問題だと思う。
引き続き議論を進めていきたい。他のご意見等いかがでしょうか。

○　災害公営住宅については，一カ所に大きなものを作るのではなく，各地区の既存のコミュニティがある箇所毎に，嵩上した上で建設して欲しい。
また，災害公営住宅が発災時の避難所としても利用できるようなものにして欲しい。

■　災害公営住宅の建設については，住宅の自力再建がなかなか難しい方もいらっしゃるので，市としても検討を始めている。
建設場所等は，来月早々に被災者の方に向け実施する，今後の住まいに関するアンケート調査の結果も踏まえ検討していく。

○　真備地区は倉敷市の中でも特に農業が盛んであり，農業を進めていく地域と

しても位置づけられている。一方で，真備だけでなく，全国的にも農業従事者が高齢化しており後継者不足が問題となっている。
今後，いくら復興し，素晴しい農業が出来るまちにしたとしても，農業の再開以前に担い手不足という問題が残っている。
今後，農業従事者が不足すると荒廃地・耕作放棄地が増えていくと想定されるため，農地の集約・大規模化に向けた施策が必要ではないかと思う。
農地として残すところ，宅地へ土地利用を転換するところなど，この機会に見直す必要がある。これらについて行政にも協力をお願いしたい。

■　ご意見の通り，全国的に農業の担い手が不足している状況である。
このため，農地の集約化・大規模化を進め，耕作の効率化を進めるとともに，新たな農業従事者を育てていく必要がある。
一方で，先祖代々受け継がれてきた土地は手放せないといった意見もあるため，集約化について関心のあるエリアから，進めていきたいと思っている。
土地利用の転換については，都市計画も踏まえ，今後，順次検討していく。

◎　農業については，農地の最適化が求められており，岡山大学でもいくつかのエリアで意向調査を実施している。その中でも，農地は先祖代々の土地であり，転換等が難しいとの意見もあるが，継続的に耕作していくことも重要である。
その他，ご意見等有りますでしょうか。

○　今次災害で，町内では 260 の事業所が被災した。
商工会では，国の小規模事業者持続化補助金の窓口を受け持っており，現在，160 社の申請の処理を行っている。
グループ補助金も個々ではなく，商工会がひとまとめのグループにして県への申請を進めている。
これについては，第一次として 130 社を登録しており，12 月中に第二次として 100 社の申請を実施する予定である。
第一次の方は，グループはできたが，申請が煩雑で個人での申請が難しいため，商工会が日々支援している。
市や県に申請に関する専門の方の派遣を要望しているが，なかなか手配いただけていない。
グループ補助金の申請を今後１～２年かけて行うため，可能な限り早急に派遣いただき，申請にすぐ対応できるような体制をつくりたい。

◎　ご意見のとおり，小規模の事業者は，申請手続きで困っているという声があがっている。中小企業診断士など幅広いところに支援を呼びかけている中で，市や県の方からの申請サポーターを要請したいというご意見であった。
これについていかがでしょうか。

■　申請先である県とも相談し，できるだけ支援できるよう努めていく。

○　懇談会でも述べたが，みなし仮設住宅など真備地区外に避難している方から，真備地区に戻りたいが災害への不安感から戻れないという声も多く聞いている。

真備地区に住民が戻ってくるためには，まず安全・安心の確保が必要だと思う。

今次災害で決壊し，応急復旧した堤防について，来年以降の梅雨や台風で壊れないだろうかと不安に思っている。住民の方からもことづかっているが，堤防の決壊カ所の優先的かつ迅速な強化をお願いしたい。

公民館（分館），コミュニティ広場など，集会の場所が住民の活動の拠点となっているため，予定通り，早急な復旧をお願いしたい。

今次災害では，高齢者や障害者の方が自宅に留まり多く亡くなった。

家族に要介護者がいる方から聞いた話だが，避難所はプライベートな空間が確保できておらず，このような場で下着の履き替えなどの介護をすることは，要介護者本人・家族共に苦痛であるため，避難所へ行かず自宅２階に避難したという声を聞いた。

障害を持っている方や体の不自由な方が安心して避難できるような避難所，もしくはこうした方へ配慮した避難所の運営が必要である。

こうしたことも踏まえた復興計画，防災・減災対策，地域づくり，まちづくりが必要だと痛感した。

先ほど農業の担い手が少ないといった話があったが，地方から真備に帰ってきた人が，農業振興地域の指定により住宅が建設できないということもあるようである。住宅が建てられるよう柔軟に対応するなどすれば，担い手の確保に繋がると思う。

◎　市民の代表ということで４点程ご意見をいただいた。

１点目は決壊した堤防の強化を中心とした，新たな防災対策について，２点目は，公民館等コミュニティ活動の場の復旧について，３点目は，防災拠点において障害者や体が不自由な方への対応について，４点目は，農業の担い手確保のために，住宅の建設に関する線引き等について，ご意見いただいた。

市の方でお答えいただけるところについてお話を伺いたい。

■　小田川の決壊カ所については，７月，８月に応急工事を始め，堤防は元の高さになっている。また，国・県へは，来年の出水期までに元の強度までの復旧を強く要望している。国からは３月末までにまずは，主要な箇所の整備を進めていきたいと言っていただいている。

コミュニティ活動の場となる施設については，被災状況に応じて，復旧速度が変わる。被害の小さい箭田地区・岡田地区は，比較的早く復旧できるが，川辺地区・服部地区は被害が大きく復旧に時間がかかる。ただし，年度内には，各地区で確保できるようにしたいと考えている。

避難所については，必要数と併せて検討していきたい。

○　方向性は，よくわかった。
具体的な案をつくる中で，細かいところを皆さんと議論していきたい。

○　災害が起きた際は，弱者がより弱い立場になる傾向がある。住宅再建が難しい方など復興弱者に焦点をあてることも必要である。
国や県とも連携し，復旧事業を進めているが，今後の気候変動を考慮すると，水害リスクは向上していく。
このため，復旧・復興後も完全な安全はないことを頭に入れておく必要がある。その上で，国や県とどんな対策をどのくらいの期間で実施するのか，この場で共有した方がいいと思う。

■　もともと小田川と高梁川の合流部の付け替え工事など河川の改修工事を今秋から１０年かけて実施しようとしていたところで災害が起きた。この付け替え工事を県事業も含め５年で実施することについては，国や県，市で共有できている。この５年の安全・安心の確保が皆様の関心事であると思う。
このため，付け替え工事が完了する５年の間も段々と安全・安心が向上することが目に見えるよう取り組んでいくことを市民の方とも共有できるよう，国や県，市で取り組んでいこうと考えている。
復興弱者の方への対応について，支援が必要な方には，適宜支援を行っている。また市では，１０月から，市内・市外に離散した被災者に対して，連絡員が巡回したり支援情報について郵送したりなど「見守り」を実施している。
この取り組みを継続的に行っていくことが重要と考えている。

➢　**議題（3）復旧・復興に向けた課題について**

■　復興ビジョンにおける基本理念等は，都市計画マスタープランの真備地区の将来像・テーマを中心として考えていきたい。
これだけではなく，「人が支え合う，人と人が繋がる」といった要素が必要であると考えるので，こうしたことを組み合わせながら，復興ビジョンの基本理念等を事務局で検討し，次回の委員会の際に提示させて頂きたい。
これについても，これからの意見交換の場で，意見を頂ければと思うのでよろしくお願いする。

◎　理念についても，この委員会で諮問を頂くということであるので，自由・活発な意見をいただきながら，この委員会で決めて行くことで，新しい一歩を踏み出す大きなキッカケの礎をつくっていきたい。
今回の未曾有の災害から，新たなまちづくりに向かうといったプラス思考からの意見も皆様から出してほしい。

○　復興は元に戻すことでも，細かい課題を解消することでもない。基本的には，

持続性をもって，明るい未来を切り開いていくということが復興。
災害を経験したからこそ，できることもたくさんあると思っている。
平時では，ジリ貧の状況，時間が立てば立つほど悪くなるようなこともあるが，逆向きにするためのキッカケというのが中々つくれない。
災害が発生すると，災害を契機とした地域の体質改善が図られる可能性もある。これをプラスの機会として，地域の体質改善を図るということ。
世界中の災害復興事例をみると，基本的にはトレンドが加速するといった傾向がある。ジリ貧だったものは，さらにマイナスになる。逆に，良い芽がでていると災害復興により，さらに良くなる。
これからの復興を考える上では，常に今までよりもさらに一歩先取りするといった視点が非常に重要と思う。
そうした視点から皆さんで議論できれば，明るい方向に持っていくことができると思う。

○ 5 年間かけて，治水対策をするということで，5 年間を何とかといった発言もあったが，過去最大の状況に対応すれば安全かということは課題であると思う。
過去最大については，もちろん対応していくと思うが，過去最高を超えるものが発生したらどうなるのかということも考える必要がある。
5 年間経った後で，安全・安心になったと思われると油断を生む。ソフト面も含めて，どのように防災していくかということを考えていく必要がある。
今回災害が発生した時に，実際に何が起こったのかをもう少し検証する必要がある。
夜中に大雨が降って，水位が上がっていった。通常災害時には，「車を捨てて歩いて逃げなさい」とよく言われるが，あの時間帯で，大雨の中，高齢者や子供達を含めて，歩いて避難しなさいということは，なかなか難しい。
そうなると，車を利用して逃げるということもある程度は考えないといけない。
真備地区の場合，旧山陽道や国道 486 号線バイパスなど，東西のネットワークを強く意識しているので，避難しようと思うと西へ，東へ行こうと考えられると思う。川の水位が上がっている中，川を超えて，北や南へ避難ということは中々意識しないと思う。
小田川の近くには，山があって，少し高くなっているので，こちら側に避難するといった意識もあると良い。車を利用して避難できればさらに良いが，皆がそういう状況にはならないので，周辺の住民が収容できる場所があれば良いし，土砂災害等の危険性もあるので，逃げるときの避難場所・避難経路を複数考えながら，将来のネットワークを考えていく必要がある。

今後，今回のような災害が起こらなければよいが，絶対に起こらないとはいえない。日常的に使っていない避難場所に緊急時に避難するといったことも中々できないと思う。そうした観点から避難場所等を日常的にどのように利用していくかということも重要。

もうひとつの視点としては，車で避難する人は良いが，車で避難できず，歩いて避難する人もいる。冠水した道路をどのように歩いて行くか。日常から岡山県では水路への転落の問題もある。冠水した時には道路と水路の境が分からない。そのため，これから，復興していくとなると，手摺りなどある程度の高さのあるものを設置するなど，緊急時に向けたインフラ整備を進めていくことも必要である。

次に，復旧・復興段階の話に移るが，私が真備に来る度に，真備の様子は変わっている。新しいお店の開店や，閉まっていたお店が再開したという話もあるが，移動の目的地が変わってきている。

こうした中で，自家用車を利用する方は良いが，公共交通を利用する人に対しては，公共交通のサービスについて，機動的に計画を考えていく必要がある。

さらにその先，復興後の未来について，この地域で安心安全で住み続けられる，将来に希望が持てるまちづくりが重要であるが，全体的な人口減少の中で，先程から話に出てきているが，地域の構成をガラリと変えていく必要があると思う。

都市計画では大事なものとして「密度」という概念があるが，どれだけ集約して，人が住める，活動できるようにするということである。復興により，被災前の元の真備に戻るだけで本当に良いのか，災害が起こる前のままで，真備の将来は本当に明るかったのかということも考えていく必要がある。

将来に向けて真備が本当に明るくなるためには，「集約」ということについても本気で考えていくタイミングであると思う。

◎　様々な視点から非常に意義のある発言をいただいた。

今回の災害は，本当に未曾有の災害であるが，またまだ復旧の段階というところから，復興に移っていこうとする段階である。

全体としては，都市計画マスタープランのテーマである「豊かな自然と歴史・文化に包まれたまち・真備」ということをテーブルに置きながら，前向きに，さらに持続可能なまちづくりに向け，どういう展開をしていくか。

今回の災害をバネにして，新たな真備を作っていこうということ。目の前の課題に対しては，一つずつクリアしていく必要はあるが，そうした発想，未来に夢がもてるまちづくりをしていこうという話。

もうひとつは，我々は，自然に対して中々超えていくことはできない。完全なものはないということ。

東日本大震災の時にも何mの防潮堤があればよいのかといった議論もあったが，そうしたものが整備されれば絶対に安全ということはない。
一方で，農業の話もあったが，東日本の時も漁業をしている人達が，（高台移転等により）漁業をしないということではない。
そうしたことも含め，ハード面での整備も必要であるが，私達が昔から大切にしてきた人と人の絆，ソフトの部分，自助・共助という話もあった。この度もボランティア等をはじめ，復旧・復興に向けた様々な取り組みが進められてきているが，新しいコミュニティづくり，希望がもてるまちづくりということについても，この会議体で積極的に，前向きに議論していきたい。

○　商工会の動きということで，災害により空き地が随分と発生しているが，青年部を中心にまとまった空地に仮店舗をつくるという形で，地域に根付いた人のお店などを開くということを進めている。地権者の方とは既に話をしているが，新しいまち，若い人たちが戻れるまちをつくろうという取り組みを進めている。倉敷市の商工課にも賛同を頂いている。
そうした方向性で動いているので，次回の会議の際には，報告等ができれば良いと思う。これを機会に，新しいまちづくりを進めていこうとする若い人たちの動きについて報告をさせていただいた。

◎　本日も私を含め，ベテランの方が多いが，これからのまちづくりを考える上では，そうした若い担い手の力を使って，私達ベテランの経験値を，そうした次世代にバトンを渡していくような役割もあると思う。
「我々のまちはこうしていく」という思いも取り入れながら，若い人達の未来にバトンを渡せるまちづくり，本当に大切で非常に心強い発言であった。

○　真備は空気がきれいで水も美味しいので誇りに思っていた。
真備全体では，確かにこのように思えるのだが，呉妹地区では過疎化が進んでいる。一番大きな壁は，市街化調整区域であることということが，皆さんの共通認識である。細かいことは分からないが，こうした壁を取り払えば，未来に希望を持てると感じている。

◎　旧真備町の時代から，真備町では地域の方の活動が活発であると聞いている。今回の災害を契機として，各地区のさらなる連携を深めながら，具体的に新しい真備を作っていけるという方向性のお話を伺った。

○　私が少年の時代，川辺地区は本当に人口が少ない所で，私が大学に行く頃には，川辺の学校は，複式授業がされるような過疎の町だった。それから，昭和47年頃から，倉敷の水島に勤められている方々が，真備，特に川辺地区に土地を求めてやってこられた。
今回の災害で川辺地区は，ほとんどの家屋が浸水しているが，岡田地区では，川辺地区と連携し，数年前から災害時の避難訓練を実施してきた。水害や地震

などの災害があった時に，川辺地区は土地が低いので，岡田地区にとりあえず，逃げましょうということで，これまで 4 回ほど，訓練を実施した。
もともと，岡田地区では，岡田藩伊東家のお殿様が住んでいた。もともと，お殿様は川辺地区に住んでいたが，水害が多いから岡田に移動してきたという歴史的な背景もある。江戸時代から今回まで 19 回の水害にあったと聞いている。
そういうこともあり，私の住んでいる岡田地区でも，もともと川辺に住んでおられた方も，岡田の高台に住んでいる。水害経験者は高台に住んでいる。
明治 26 年の水害と今回の災害では，14 ㎝しか差がなかったと聞いている。それぐらい大きな災害であった。
都市計画マスタープランについて，今回の災害を契機として，新しい真備町にしていくためには，道路網の整備も必要であると思う。国道 486 号線のバイパス工事も進められてきたが，やはり南北の道路も必要と思う。
今回，岡田小学校の避難所に，6 日の晩から 7 日まで 2,000 名近い方が避難されてきた。6 日の深夜，岡田小学校の周りは細い 4mの 1 車線道路しかなく，多くの方が，車で避難してきたので，その時の交通渋滞はすごかった。
その時，総社市のアルミ工場の爆発もあり，それを受けてさらに多くの人が避難してきた。辻田小学校のあたりから岡田小学校まで 2 時間近くかけて避難してきた方もいた。本当に道路が狭い。
こうしたことも踏まえて，水害を契機として，真備町の復興に向けた道路網・インフラの整備をお願いしたい。そして，皆さんが安心して住めるまちにして頂きたい。

◎　さきほどのモビリティの話，軌道も含めて，今回を契機とした新しいまちづくり，また，真備地区が日本をリードするような防災のシステムということ。
住民の方が意識しながら進めていくこと。課題にもあったが，災害を風化させないこと。そうした歩みを含めて色々と進めていけたらと思う。

○　現在の都市計画マスタープランには，「安全の確保」という項目がないので，それについては，今回の被災経験を踏まえて記載していく必要がある。
その上で，従来の防災というと，「治水＋避難」という 2 本柱であって，治水のために工事は頑張ります。万が一浸水した場合は，皆で逃げましょうということであったが，私はもう一段階必要と思っている。
治水対策をしてもリスクゼロということにはならない。小田川の合流点の付け替えを行った後に，国土交通省では，もう一度ハザードマップの見直しということで，浸水想定区域図を作ると思うが，計算上，浸水区域が無くなるということではないと思う。
浸水は必ず起こるということも踏まえると，治水だけ，避難だけでは不十分。

避難所の問題や，体が弱い高齢者等が益々増えていくといったことを踏まえると 3 つ目が必要。その 3 つ目が何かというと，私は「浸水対応型まちづくり」と呼んでいるもので，万が一，浸水しても大丈夫な市街地をソフト・ハードの両面から作ろうということ。

ハードについて言えば，今回も多くの家屋が浸水したが，仮に浸水しても容易に復旧できる家の建て方，仮に逃げ遅れたとしても，命辛々の状況でも良いから，自宅で命を守れるような家の建て方にするといったこと。

公共施設についても，仮に浸水しても，すぐに機能が復旧できるように建て替えたり，改築していくといったこと。そうした小さな工夫を積み上げていくことで，浸水しても大丈夫な市街地がつくっていける。

それに加えて，地域社会の助け合いなど，ソフト面を充実していくことで，万が一浸水しても，大丈夫な市街地ができる。

おそらく，これが真備でできると，日本全国が真似をしたくなるようなモデルができあがると思う。

◎ 本日頂いた意見を反映できる流れをつくりながら，復興計画の策定に邁進していきたいと思うので，皆様にも色々とお願いをしたいと思う。

➢ **閉会**

■ 本日は，皆様，お忙しい中，出席いただきましてありがとうございました。

当初の計画では，委員会の開催を今回と 1 月，3 月の 3 回を予定すると案内をさせて頂いていたが，12 月末に復興ビジョンを公表ということで，その前に委員会を開催させて頂きたい。

■ 本日は復興計画策定委員会ということで，地域や団体の皆様，有識者の先生方からご意見を頂いた。そうしたことを踏まえて，復興ビジョンの大きなテーマ（理念等）を検討していきたい。

まずは，復興ビジョンということで，大きな方向性について，皆様に集まって頂いて，ご説明をして，ご意見を頂く機会を設けさせて頂きたいと思っている。